

第 108 話〈戦死〉の要約と参考資料

第 108 話〈戦死〉の要約と参考資料

土呂久の戦死者の墓碑を読んで回ったことがあります。目にした墓は 16 基。一覧表を作つて戦死した場所を地図に落とすと、祖母山系の谷間の集落の若者たちが、遠い西太平洋の島々に散ったようすが見えてきました。米英などを相手にした戦争の無謀さを語っています。

第 108 話〈戦死〉の要約と参考資料

108-1 佐藤一志（ひとし）さん

佐藤一志さんから弟直さん宛軍事郵便

表書

長崎県佐世保市矢岳 194 久家様宅

佐藤直様

軍事郵便（赤色のスタンプ）

裏書

満州国奉天

満州第 879 部隊 岡田隊

佐藤一志

本文

拝啓 酷暑の候 其の後御変わり無く壮健にて勤務到り居られる事と遠察致します。長い間御無沙汰致せし事を何卒お許被下度、不肖私も去る四月二十日奉天着で表記の部隊で勤務致して居ります。唯今も至極大元気で再び銃を執り〇〇の警備の任務に報じて居り、廣漠タル平野の一角で僚友達と楽しく暮らして居ります。故国在留中は色々と御世話に相成りましたね。

今日も又満州の赤い夕日は沈んで行きます。夕日が沈む頃はなんとなく故里が懐しく成りますね。聞こえる物は唯汽車の音計です。

今頃、父上様や母上兄弟達は何うして居るでしょう。元気で暮して居ましようか。俺も流れ流れて満州迄で来たが、此所で死する覚悟で一生懸命働いて満州に土地でも買って一生此の満州で暮らす気で働いて居ます。まあ君もよかったら来たまえ。こちらでは何とでも成りますよ。将来の計画に頭をひねって居ますから何分君の頭を借りたいと思つて居る。金でも溜まったら此所の地でも買い給え。ではね。体に気を付けてね。働いて呉れ。元気でね。父上母上に宜敷く伝えて下さい。

直君

さようなら

愚兄より

墓碑

佐藤一志 昭和 21 年 8 月 26 日 30 歳

佐藤洋さんの話（2021 年 5 月 18 日電話で聴取）

私は覚えちよりますわ。一志さんは満州行って、シベリアに抑留されて、終戦の翌年帰ってきたんです。ずんだれた背嚢を背中に背負って、岩戸から小芹出身のまさたろうさんの馬車に乗せてもろて帰ってきて、うちの外縁に座った姿を。シベリアで食糧もななかで働かされて栄養失調になったんでしょう。やせこけて、寝たまま起きることもなく、何日目かに死にました。医者に診てもろてもだめだと思ったんでしょう、医者にはかからんずく。戦死あつかいはされなかったけど、じいさんの知り合いが同じシベリアに行っていて、証明してくれたので、抑留者としてあつかわれました。

108-2 土呂久の戦死者

土呂久歴史民俗資料室所蔵カード「土呂久の人物」より

惣見組

惣見

佐藤 恵（めぐむ） 昭和 19 年 11 月 21 日 23 歳
海軍 2 等機関兵曹 台湾沖にて戦死

佐藤トネさんの話（1979 年 10 月 18 日聴取）

勝さんの弟。戦艦「金剛」に乗っていて、魚雷で撃沈。機関兵だから船底にいて沈んだ。19 歳で海軍に志願した。

佐藤 迅（はやし） 昭和 19 年 10 月 25 日 33 歳
ブーゲンビル島に於て死亡

都城歩兵第 23 聯隊戦記 戦没者名簿より

第 3 大隊本部 佐藤迅 19.9.12 シンガキロ 高千穂町岩戸

佐藤トネの話（1979 年 10 月 18 日聴取）

嫁さんはツヤ子さん、子どもはいなかった。延岡に出て桶屋に弟子入りしていた。召集が来てから、ツヤさんは忙しいとき加勢に来ていた。それで、ここに戦死の公報がきた。まとめて発表するので、ズレがある。戦死か栄養失調かわからん。ツヤさんは、ここからヒマとって押方の那須さんの嫁に行った。女の子を 1 人産んで、3 年前に死んだ。那須さんは村議員で健在。

佐藤 力 昭和 21 年 2 月 17 日 30 歳

佐藤トネさんの話（1979 年 10 月 18 日聴取）

濡れたまま行軍させられ、風邪をこじらせて、帰って来たとき肺炎。陸軍病院から帰された。帰って養生し、田上病院で診察受けて「入院したら、1 か月で治

る」と言われたが、「迷惑かけられん」と、ここで寝付いて、治しきらずに何か月かたって死んだ。病名は結核。

中鶴

佐藤蔵男 昭和 20 年 5 月 15 日 38 歳
陸軍軍曹

(墓碑) 蔵男は万蔵の 5 男に生れ、昭和 2 年召集、4 年 1 月 10 日都城歩兵 23 聯隊に現役兵として入隊、5 年 7 月 10 日満期除隊となり帰郷す。其后、農業は勿論、在郷軍人(不明)長となり、並びに消防伍長を努め多忙な日を過しているうちに昭和 12 年 7 月支那事変勃発の為、応召受け同年 8 月 14 日都城聯隊に入隊、同年 12 月除隊、其后は青年学校指導員を務む。16 年 7 月 8 日現役応召西部 17 部隊に入隊、満州ハイラル派遣され、18 年 12 月解除に依り帰郷す。3 度の応召に依り 19 年 8 月 7 日都城部隊に入隊、沖縄に派遣され、20 年 5 月 15 日沖縄真部山の戦闘に於て戦死せり。行年 38 歳

長石

佐藤次夫 昭和 20 年 3 月 3 日 38 歳
陸軍伍長 ルソン島ニテ戦死ス

仁戸内

佐藤 宏 昭和 20 年 3 月 17 日 39 歳
硫黄島ノ戦ニ於テ戦死ス

(墓碑) 宏ハ大正 10 年 3 月岩戸小学校高等科卒業后農事ニ従事シ、昭和 3 年 1 月 10 日都城歩兵第 23 聯隊ニ入隊中濟南事変ニ参加各地ニ転戦、同 4 年 11 月除隊帰宅后家事ニ励ミ、カタワラ青年指導員トシテ青年教育ニ専心ス、同 13 年 5 月 24 日歩兵第 23 聯隊ニ応召中支方面ニ派遣サレ各地転戦、同 14 年 7 月 17 日召集解除、同 19 年 2 月西部第 17 部隊ニ応召大東亜戦争ニ参加硫黄島方面ニ派遣サレ、昭和 20 年 3 月 17 日同地ノ戦闘ニ於テ戦死ス

佐藤花恵さんの話(1979 年 4 月 14 日聴取)

うちの親爺は 3 回兵隊に行った。いちばん最初は 21 歳で都城に入隊。そのあと支那事変に行つて負傷して、中支の一線に立たして、山の中で包圍されて 20 日余りも食べんで、木の柴を食べたりして、ものすごく痩せて帰つてきた。それから 19 年 2 月に行つて、20 年 3 月の硫黄島玉砕で戦死じゃった。はがきが 11 通あつた。「子どもを頼む、子どもを頼む」ちの。最後の葉書は、「(戦場に行くのを)一時見合わす」。硫黄島に渡つてからは連絡がない。

(戦死の公報が届いたとき)宏の兄が荒谷の義雄さん。岩戸の土持元生さんが助役しとつたが、直接うちには言うて来きらんで、荒谷の義雄さんが元生さんを連れてきた。そのとき家には、金男(小学校 6 年生、13 歳)しかおらん。わたしは畑仕事しよつたが、金男が「母ちゃん、父ちゃんが……」ち、あとは言葉に

ならんとよ。泣きながら走って来たとき、わたしは、なにかすぐわかった。その場に座り込んでしもうた。畑に出て、仕事を一生懸命しよったとこじゃが、声も出らん。そしたら、あとを元生さんと義雄さんが来た。

召集令状は赤紙たい。公報は口で言うてこらすとたい。なかなか言いにくいものじゃから、兄さんを連れてこらしたもんたい。

前の年の2月に行って、13カ月で戦死の公報。元生さんは「硫黄島で戦死したという知らせがあった」というだけ。口伝えで、硫黄島は玉砕したと、それから聞いた。海のまん中、逃げ場、隠れ場はない。現役でとられたのは、同じ年齢（鎮男、実雄……）では土呂久で1人。鎮男（三代士の弟）さんはくじのがれで、甲種合格だが、兵隊に呼ばれん。召集もこんとやから。

私とこの主人は、訓練のじょうしとったちゃが、岩戸の青年学校で指導員をして。指導員は、岩戸地区では、土呂久の宏、黒原のマツオ、立宿のアキヨシの3人くらい。生徒を野営に連れて行ったり、鉄砲撃ちの練習したり、演習のまねして、撃つまね、隠れ方、戦争の稽古。軍人勅諭を教えて、国のためなら命もいらんとたたき込む。無報酬ですたい。奉公。くれてもタバコ銭くらい。青年学校は20歳前の生徒を集めて、軍隊の教練をしよった。指導員しとるときに召集がかかって、それが最後。

戦死の公報はとつぜんじゃからね。「無事で帰ってくる」と思うて、銃後の守りをしとるとよ一。5人の子どもかかえて、腰元でみな育てた。残った者は骨折るとよな。あの頃、特別の人でないと、政府の援護もない。月に援護費用は1円40銭。まこつ苦勞したわ。

ナバは煙でダメ。炭焼きして鉱山にだしよった。炭焼きを一人でせなならんごつなつて。戦死したとき、13歳を頭（金男）に4か月のすそ子（八津子）まで子が5人。炭俵、1俵8貫500を2俵、合わせて17貫を孫平からかるうて、やっと人間が通るような2キロの山道を下りよった。4か月の子どもを帯を掛けて、前に抱いて……。惣見橋のたもとに、要三郎さん（町）の土地を借りて宏さんがつくった炭小屋があった。そこにかかるうて出しよった。馬車が来て、笹の都に持って行って売りよった。山からそこまでからい出さんと、運びだせんかった。苦勞したこと、忘れておらんがな。八津子が2つくらいのとき、ナフタリンいう布で着物つくってやって着せると、仏さんの前で、「父ちゃん、これいいやろが」ち見せたのをわすれきらん。私が婦人会長して、400～500人の前で「草葉の陰で」と（戦後の苦勞を）報告したとき、みんなもらい泣きした。

硫黄島生き帰りの佐藤峰喜さんに会いに行ったが、「宏とは硫黄島では会うとらん。わからん」ということじゃった。峰喜さんの話では、支那事変で応召したとき、うちのがよろけしもち、20日も笹の葉しか食わず、よう歩かん、敷居も越えきらん。金平糖を3つ持とったんでやったが、食べきらんやった、げな。

このとき木島部隊だった。

南組

先

佐藤浪百 昭和 20 年 4 月 18 日午前 11 時 50 分 36 歳
台湾高雄州郡枋寮庄枋寮ニテ戦死ス
佐藤正広 昭和 20 年 9 月 1 日 32 歳
比島ネグロス島バコロズ戦死

倉

佐藤玉四

佐藤藤夫さんの話（1979 年 4 月 14 日聴取）

昭和 20 年に台湾で電気にかかって死んだ。昭和 21 年に連絡があった。役場から 2 人来て、口で言うだけ。

母屋

佐藤勇八 昭和 13 年 11 月 6 日 31 歳
戦病死

（墓碑）勇八ハ佐藤一蔵ノ長男、昭和 5 年 1 月 10 日都城歩兵第 23 聯隊入営現役ニ服ス、同 5 年 11 月 30 日（1 字不明）休除隊、同 13 年 5 月 24 日充員召集ニテ応召サレ中支各地戦闘ニ参加、徳安迂回戦ノ際病ニ罹リ、同年 11 月 6 日野戦病院ニ於テ病死ス

佐藤孫一 昭和 25 年 8 月 12 日 39 歳

（墓碑）孫一ハ佐藤一蔵ノ次男ニ生ル、昭和 7 年 1 月 10 日西部 17 部隊ニ入営現役ニ服ス、后応召 3 回ニ渡リ支那事変及大東亜戦ニ参加、昭和 20 年 10 月熊本陸軍病院ニ於テ療養中終戦ニ依リ同病院ヲ退院自宅静養 昭和 25 年 8 月 12 日死去ス 行年 39 歳

佐藤幸一 昭和 19 年 7 月 25 日 22 歳

（墓碑）幸一ハ佐藤一蔵ノ四男生レ、昭和 19 年 1 月 10 日佐世保海兵団ニ入団、同年 4 月出帆后、同 19 年 7 月 25 日グワム島ニ於テ名誉ノ戦死ヲ遂グ

畑中組

畑中

佐藤 篤 昭和 20 年 6 月 15 日 23 歳
（墓碑） 昭和 18 年 9 月 1 日 太刀洗航空隊入隊
昭和 20 年 6 月 15 日 比島バギオ戦死
昭和 23 年 7 月 22 日 凱旋自宅葬

佐藤直さんの話（1979 年 10 月 17 日聴取）

私のすぐ下の弟、太刀洗の飛行場勤務（整備）、教育受けてフィリピンに。太刀洗は陸軍、九州（福岡県筑前町）にある。階級は死んで陸軍兵長。通知があつ

て、しばらくして石ころが入っているだけの遺骨が届いた。

畑中の下

佐藤袈裟住 昭和19年10月4日 29歳

都城西部17部隊 湖南省戦死

佐藤貞住 昭和19年2月9日 24歳

都城西部17部隊 ソロモン ブーゲンビル

岩下

黒木正美 昭和19年11月9日 26歳

ブーゲンビル シンガキロ戦死（昭和21年12月5日自宅葬）

黒木暎美さんの話（1979年10月18日聴取）

ブーゲンビルより生還した人に、岩神の甲斐フミオさんがいた。私（大正12年生）の3級上、兄正美より下。話を聞きにいったが、「（私の兄には）会わなかった」としか言わん。本当なことは遺族に話せん。あとで、よその人に「気の毒で、本当のことは話せんかった」と言うた、と聞いた。フミオさんは、カエル食べたり、草食べたり、衛生兵じゃったから、薬は気の毒じゃが自分たちのために残して、死にかかった兵隊には渡さんかった、と話していた。

正美は昭和15年、満20歳の現役で、都城へ最初入隊した。甲種合格、身体はいいし、元気良かった。15年3月1日、都城入隊。下士官の教育隊（小倉）に入って、下士官になって都城に戻った。しばらく都城におったが、野戦に行くごとになって、昭和18年8月都城を出た（軍曹）。身の回りのものを「取りこい」というんで、親父は別れを兼ねていった。台風の大きいのがあったあと、帰ってくるこた帰ってきた。都城出てから、1回葉書がきた。「船の上、乗っちゃる。どこ行くかわからん」。直接、ブーゲンビルに行ったやらわからんが、戦死の公報に「トロキナ岬で腸チフスで戦病死」と書いてあった。

野稲の先が黄色くなったので、刈り入れるころ、この米をついて、ご飯炊いたってすかね。自分とこ米を供出して雑穀だけ食べていきちよった。遺骨は、大豆粒くらいの小石が入っていた。戦場に立つ前、髪、爪が届いていたので、これを入れて埋めた。

岩戸のこっちに、海軍行て生きて帰った工藤伝蔵さんがおった。この人が帰ってきてから、ブーゲンビルでは海軍と陸軍が喧嘩して、島のすぐ近くまで食糧運んだが、降ろさず帰ったことがある、と言っていた。フミオさんは帰ってきて、1年くらいして死んだ。上がりもきらず、ひっくり返ったままのを抱えあげた。そげ疲れて戻ってきた。おかゆから食べさせたが、体がむくみ、腫れが出て、手当てがでけんかったちゃろな。生きて帰った人は、本当のことを言わん。よろけた人間を殺して食うたかしれん。人間としてはいかんようなことをする。生きて帰った後ろめたさもあるんでしょ。正美は食料もなく、病気にかかったちゃろ。

正美は、大正 8 年 3 月 5 日生まれで長男。元気よかった。走るのも速い。体格はいい。頭もよかった。

108-3 土呂久の戦死者（16人）のまとめ

日中戦争（1937年7月～1945年8月）

個人番号	名前	死亡年月日	年齢	場所	理由
No1	佐○勇○	1938.11.06	31	中国・中部	病死
No14	佐○袈○住	1944.10.04	29	中国・湖南	戦死

太平洋戦争（1941年12月～1945年8月）

個人番号	名前	死亡年月日	年齢	場所	理由
No15	佐○貞○	1944.02.09	24	ブーゲンビル	戦死
No12	佐○幸○	1944.07.25	22	グアム	戦死
No2	佐○迅	1944.10.25	33	ブーゲンビル	戦死か餓死？
No16	黒○正○	1944.11.09	26	ブーゲンビル	戦病死
No1	佐○恵	1944.11.21	23	台湾沖	戦艦撃沈
No5	佐○次○	1945.03.03	38	フィリピン・ルソン島	戦死
No6	佐○宏	1945.03.17	39	硫黄島	戦死
No7	佐○浪○	1945.04.18	36	台湾	戦死
No4	佐○蔵○	1945.05.15	38	沖縄真部山	戦死
No9	佐○玉○	1945.06.08	19	台湾沖	戦死
No13	佐○篤	1945.06.15	23	フィリピン・ルソン島バギオ	戦死
No8	佐○正○	1945.09.01	32	フィリピン・ネグロス島	戦死

陸軍病院退院後自宅療養中

個人番号	名前	死亡年月日	年齢	場所	理由
No3	佐○力	1946.02.17	30	自宅	病死（結核）
No11	佐○孫○	1950.08.12	39	自宅	病死

死亡年と年齢

	1941年12月以前	1941年12月～ 1944年12月	1945年	1946年以降	計
10歳代			1		1

20 歳代	0	5	1	0	6
30 歳代	1	1	5	2	9
計	1	6	7	2	16

死亡場所

ブーゲンビル島	3 人 (時期は 1944 年 2 月～11 月))
台湾	3 人 (台湾沖撃沈を含む)
フィリピン	3 人 (ルソン島、ルソン島バギオ、ネグロス島)
中国	2 人 (中部、湖南)
グアム	1 人
沖縄	1 人 (真部山)
硫黄島	1 人
自宅	2 人 (陸軍病院退院後療養中)

108-4 戦争に関する和合会議事録抜粋

大正 15 年 3 月 9 日

一、入営兵佐藤市作氏救助にかんする件

和合会青年支部、佐藤軍人班協力シテ各戸一人役宛つ農繁期ニカセイスルコト

昭和 4 年 11 月 25 日

一、入退営に関する件

入退営の際は各自会費四括米、肴は持出しにて見送り出迎は全部出場すること、多数
入退営の際は此の限に非ず

昭和 5 年 2 月 22 日

一、入退営兵に関する事

緊縮ノ折柄に付当局者より言葉のない処には行かない事 但し組合は全部の事

昭和 13 年 2 月 13 日

一、事変記念事業に関する件

勤労倍加に付今後益々家業に精励なす事 桐の木亦是杉の木何れの木なれどもかな
らず植付け置く事トナレリ

昭和 13 年 5 月 25 日

一、応召兵家族に関する件

応召兵家族に付ては応召兵家族以外の人にて年二回に分け多忙の時季加勢なす事
一戸八名宛つとす 但し和合会員婦人会青年団其の外右に関係なす者と雖も加勢の
事

昭和 15 年 3 月 2 日

紀元二千六百年記念事業の件

各部落にて実行の事

昭和 17 年 11 月 25 日

一、物資配給に関する件

*戦争中の女性の出席者数

16 年 11 月 26 日 : 38 人中女性 3 人

17 年旧正月 24 日 : 37 人中女性 5 人

17 年 5 月 26 日 : 36 人中女性 4 人

17 年 11 月 25 日 : 35 人中 3 人

18 年 2 月 28 日 : 44 人中女性 4 人

18 年 5 月 25 日 : 36 人中女性 5 人

18 年 11 月 25 日 : 36 人中女性 2 人

19 年 2 月 25 日 (?) : 45 人中女性 2 人

20 年 5 月 25 日 : 37 人中女性 3 人および「代人」5 人 (うち 1 人女性)

戦後は、

昭和 20 年 11 月 25 日 : 42 人中女性 10 人

昭和 21 年 5 月 25 日 : 38 人中女性 4 人